

主催者あいさつ
暮らし・いのちを守る社会

2020年からのコロナ禍により、第4回医療研は中止に、第48回・49回はオンライン開催となりました。4年ぶりの開催が第50回の節目となります。開催にむけてご協力いただいたみなさんに感謝申し上げます。

コロナ禍は医療提供体制・社会保障の脆弱さを浮き彫りにしました。しかし政府の対応は無為無策で、現場の使命感と責任感に頼り切り、結果として多くの仲間が現場を去りました。医労連の調査でも退職者が増え、病院会の調査でも新卒採用が落ち込んでいます。今こそ、地域医療を守るために早急に報酬改定を行い、手厚い人員配置と処遇改善が求められます。

医療研は「国民と広く連帯し、患者・地域住民と医療・介護・福祉労働者の人権・いのちの尊厳を守る」をメインテーマにしています。医療・介護・公衆衛生体制の充実強化、いのち・暮らしを守り、憲法いかし人権が守られる社会にするため、学び行動していのちと暮らしを守る政治に転換させましょう。

◆基調報告◆

基調報告を行なった鎌倉幸孝
日本医労連副執行委員長は、

「政府はコロナ対策で無為無策を続け、75才以上の窓口負担増で追い打ちをかけるに留まらず、来年秋には健康保険証廃止・マイナンバーカード強制を進めようとしている。公的保険診療から国民が遠ざけられる結果になりかねない。岸田政権による医療や介護、社会保障の抑制政策を大転換が不可欠」と呼びかけました。また、コロナ禍で社会の課題が浮き彫りになる中で開催された医療研集会の意義にふれ、「従来の私たちが取り組んできた課題に加えて、医療提供体制の『備え』の重要性など、コロナ禍での教訓を議論して深めることが大切だ」として、さらに医療研究運動を発展させる取り組みを訴えました。



山形県の地域医療の充実をめざして

山形大学大学院医学系研究科
医療政策学講座教授 村上正泰 先生

県内の医療機関の入院動向を調べ、傾向を分析した上での提言は、非常に納得のいく内容でした。

そして、政府が推し進めている地域医療構想における2025年の必要病床数は、診療報酬点数で病床機能分類をしているため、実態との乖離がある指摘。再編統合ありきではなく、地域の医療ニーズを分析した上で、集約化が必要な機能と分散化が必要な機能のバランスを取るべきであると解説されました。



記念講演Ⅰ

主催

第50回 医療研究全国集会組織委員会

TEL 03-3875-5871

日本医療労働組合連合会 <http://www.irouren.or.jp/>公益財団法人 日本医療総合研究所 <http://iryousouken.jp/>

〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5 日本医療労働会館3F

〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5 日本医療労働会館1F

協賛 第50回医療研究全国集会in山形・現地実行委員会／山形県医療労働組合連合会

医療研究全国集会 50 回目を迎えて

～コロナ禍で見た保健・医療・介護・福祉の今後～

佛教大学教授 横山壽一 先生

50年に及ぶ医療研究の歩みと意義について、医療・介護・福祉など社会保障制度の変遷とともに解説されました。そして、医療研究での議論が、医療労働運動を支え、国民医療を守り発展させてきたことや、医療労働者の生活と権利を守り、国民の医療を守ることを一体にする医療労働運動の基本路線を確立させたことなど紹介されました。日常の実践を持ち寄り研究し、更に実践に活かす医療研究の重要性に言及し、50年の蓄積と成果を共有化することが大切と訴えました。



記念講演Ⅱ



山形市大曾根餅つき保存会
餅つき実演



食の交流会



取り仕切りで奮闘した
遠藤亮さん



山形まめ知識

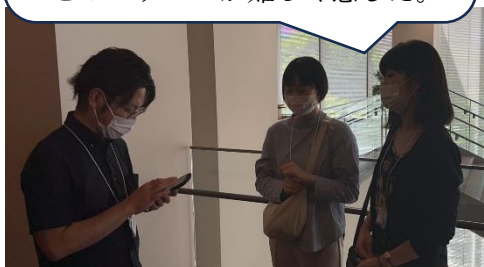
山形県のソウルフードの「玉こんにゃく」。その名の通り丸い形をしたこんにゃくで、串に刺して醤油ベースの汁で煮込んだ状態のものがよく売られています。観光地やお祭りの屋台の定番メニューで、スーパーでも味付け前のものが売られており家庭でもよく食べられています。

第50回

ヤマガタ

参加者感想

富山から来ました。初回と今回が3回目です。統廃合の課題は難しいですね。医療を集約することと、地域密着型で医療を提供することのバランスが難しく感じた。



仙台からの参加です。大学の先生の話は現場の者には少し難しく感じました。

